

か なた ヤゴのかんたんな飼い方

しぜん探検隊式ペットボトル・ヤゴ飼育セット



上石神井小学校
しぜん探検隊

①ペットボトルを用意して、底から20cmほどのところで上下に切り分けれます。切り分けたもののうち、下の部分を使います。

ペットボトルは、1.5リットルか、それより大きなものを使います。なかを観察しやすいため、炭酸飲料の丸いペットボトルがよいでしょう。



②割りばしを用意します。このとき、割りばしはふたつに分けないようにします。



もし割りばしが高いようなら、2ゼンの割りばしを接着剤でつなげて長くしましょう。

③割りばしの下の部分を、割らないように少し広げてペットボトルのふちをはさみ、割りばしを立てるようにして固定します。

④ペットボトルに水を8分目ほど入れます。割りばしの下の先が水に3~4cmほどつかるように、割りばしの高さを調節します。水は水道水でだいじょうぶです。ヤゴがつかまつたりかくれたりする場所として、水草を入れるとよいでしょう。水草が手に入らないときは、台所で使う三角コーナーのゴミネットなどの切れ端をいれてもよいでしょう。

⑤ひとつのペットボトルに、ヤゴは1匹ずつ入れましょう。2匹以上入れると、ヤゴは共食いをしてしまうことがあります。

さあ、これでヤゴを飼う準備ができました。日なたなど、直射日光が当たるところに置くと、水温が上がりすぎるので、窓ぎわなど、日光が直接当たらない、明るい場所に置くとよいでしょう。カーテンや壁がすぐ近くに

ると、羽化の時に羽化ぼうからそちらに移って羽化してしまふことがあります。

⑥ヤゴは生きて動いているエサが大好きです。そこで、ヤゴを飼うときには、エサとして、生きているミミズ、アカムシ、イトミミズなどを与えます。

ミミズやアカムシ、イトミミズなどが手に入らない場合、私たちが食べる肉や魚の切り身、エビ、アサリやシジミなどの貝の身を小さく切ったものを与えてみましょう。ヤゴは生きて動いているエサを食べます。割りばしなどでエサになるものをつかんで、ヤゴの顔の前に持って行ってユラユラとゆらすと、ヤゴがあごをのばしてエサをとる様子を見ることが出来ます。

エサは数日与えなくてもだいじょうぶですが、長い間エサを与えないとヤゴは死んでしまいます。できればエサは毎日少しずつあげましょう。

エサを毎日与えていると、少しずつ水がよごれてきます。水がよごれてきたら、水を取りかえてあげましょう。ペットボトルの飼育容器をもうひとつつくっておいて、そこにヤゴを移し、飼育していた容器を洗うようにすると便利です。

ヤゴは、羽化が近づいてくるとエサを食べなくなります。体がじゅうぶん大きくなり、エサを与えてもまったく食べなくなったら、もうすぐトンボになる合図です。

⑦ヤゴは夜に羽化をしてトンボになります。おおよそ夜8時～9時くらいから羽化を始めることが多いようです。

ヤゴが割りばしにつかまって水面から顔を出し、じっとしていたら、部屋を暗くして静かにしていきましょう。そのうちに割りばしを登って、羽化を始めます。

背中が割れ始めたら部屋を明るくして観察してもだいじょうぶです。ただし、けっしてヤゴや羽化したばかりのトンボにさわってはいけません。静かにヤゴがトンボになるのを観察しましょう。

プールから救出したヤゴは、短ければ数日、長くても7月の末くらいまでにはほとんどが羽化します、エサを与え、しっかりと世話をして、ヤゴが立派なトンボになるのを見とどけましょう。

しかし、ヤゴも生きものです。いろいろな原因で死んでしまうこともあります。トンボになる直前まで育て、羽化の途中で羽化に失敗して死んでしまうこともあります。悲しいことですが、それも生きているもののひとつの姿です。

命がつながっていくといくとはどういうことか、自然のなかではすべてのヤゴがトンボになれるのだろうか。ほかの生きものではどうなのだろうか…。たとえヤゴがトンボになれなかったとしても、ヤゴの命が私たちに教えてくれることはたくさんあるはずですよ。もしヤゴを羽化させることに失敗しても、次の機会には成功するように、ぜひまた挑戦してください。



質問・問い合わせは…
上石神井小学校しぜん探検隊
<http://shizentankentai.com>
トップページの〈問い合わせ〉へ



しぜん探検隊